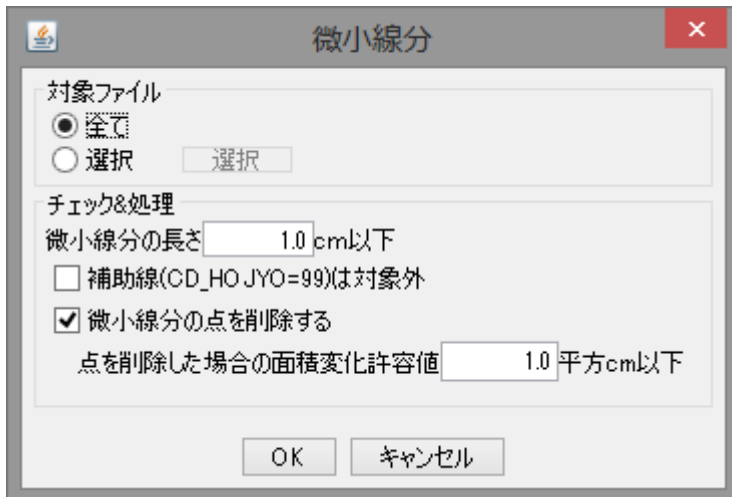


1. 微小線分

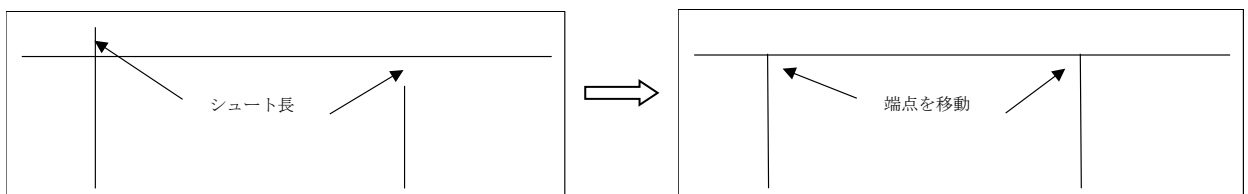
メニュー[チェック]-[微小線分]で、点列の間隔が 0.00001 メートル以下の距離で近接している場合、近接した点のみでなく、その隣の点も削除してしまうケースがあり、この問題を修正しました。

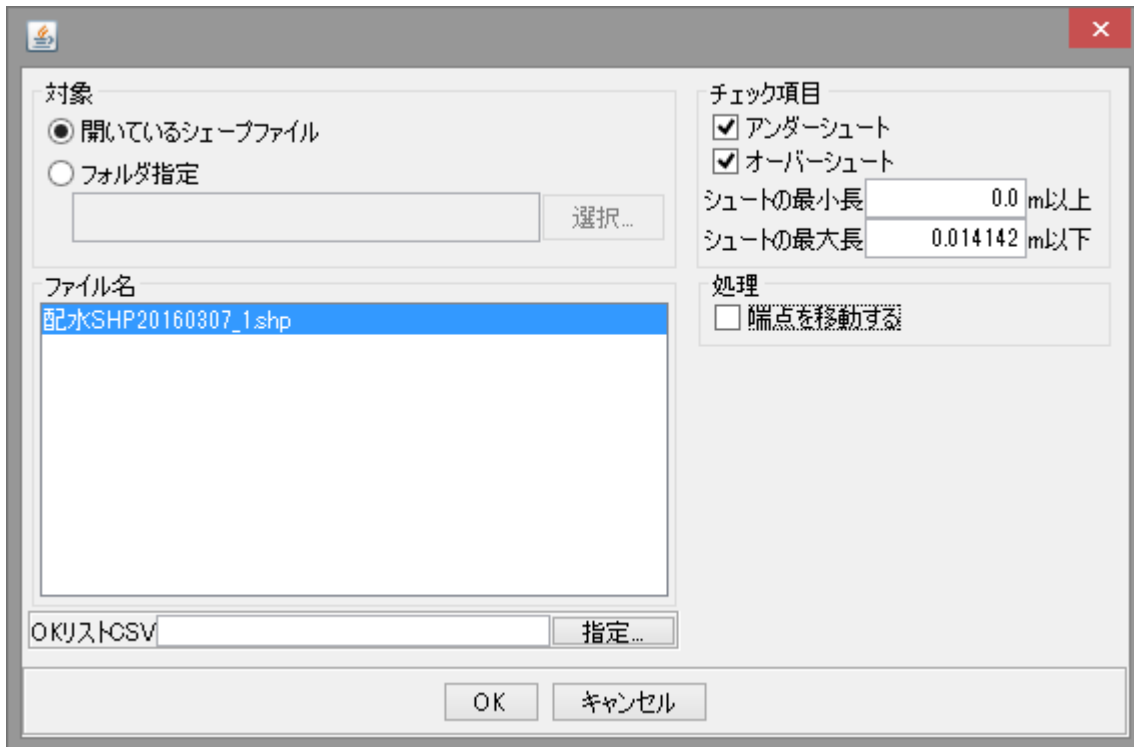


2. オーバーシュート・アンダーシュート

新メニュー[チェック]-[オーバーシュート・アンダーシュート]を追加しました。

ポリラインとポリゴンのシェープファイルについて、オーバーシュートとアンダーシュートを検出します。ポリラインの端点が他のポリライン・ポリゴンの線分上になく、わずかに出ている、あるいはわずかに足りない箇所を検出します。また自動で端点を線分上に移動させることもできます。





開いているシェープファイル

開いているシェープファイルについてチェックします。開いているシェープファイル名を[ファイル名]に表示します。

フォルダ指定

指定されたフォルダ内のシェープファイルについてチェックします。指定されたフォルダにあるシェープファイル名を[ファイル名]に表示します。

ファイル名

選択されたポリラインシェープファイルについて検査します。ひとつのシェープファイルが選択された場合、そのシェープファイルのデータでオーバーシュート・アンダーシュートを検査します。複数のシェープファイルが選択された場合、異なるシェープファイル間でのオーバーシュート・アンダーシュートも検査します。ポリゴンシェープファイルも検査で参照される対象となります。例えば、道路縁と建築物が選択された場合、建築物はポリゴンなので検査しませんが、道路縁の端点が建築物のポリゴンの内側に入っているケース、道路縁の端点が建築物に届いていないケースを検出します。

シュートの最少長

オーバーシュート、アンダーシュートの最少の長さを指定します。隙間がこれより小さい場合、出ている長さがこれより小さい場合は対象外とします。デフォルトは0mです。

シュートの最大長

オーバーシュート、アンダーシュートの最大の長さを指定します。これ以上出ているあるいは離れている場合は検出の対象外とします。

端点を移動する

オーバーシュート、アンダーシュートとなっている端点を、相手のポリライン・ポリゴン上に移動します。同時に、相手のポリライン・ポリゴン上に同じ座標の点を挿入します。移動した端点は[確認リスト]にリストアップします。

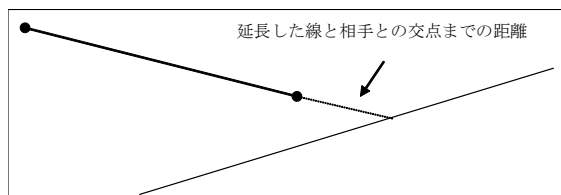
検査の結果は[チェックリスト 1]パネルに表示します。相手が異なるシェープファイルの場合、表示項目の最後に相手のシェープファイル名を表示します。相手が同じシェープファイルのポリラインの場合、シェープファイル名は表示しません。下図のオーバーシュートでは、道路縁ポリラインの端点が建築物の内側に入り込んでいるケースを示しています。

表示項目と項目数	
<input checked="" type="radio"/> すべて	118
<input type="radio"/> OK以外	118
<input type="radio"/> OKのみ	0

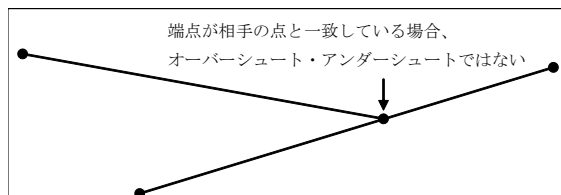
(94)道路縁.shp : アンダーシュート	終点側	シュート長(m)	-0.0039	(-58382.010, 81688.380)
(95)道路縁.shp : アンダーシュート	始点側	シュート長(m)	-0.0086	(-55353.080, 83426.710)
(96)道路縁.shp : アンダーシュート	終点側	シュート長(m)	-0.0029	(-55905.520, 83975.050)
(97)道路縁.shp : アンダーシュート	始点側	シュート長(m)	-0.0049	(-55906.530, 83972.390)
(98)道路縁.shp : アンダーシュート	終点側	シュート長(m)	-0.0027	(-59611.720, 83082.540)
(99)道路縁.shp : アンダーシュート	始点側	シュート長(m)	-0.0040	(-59611.050, 83081.130)
(100)道路縁.shp : アンダーシュート	終点側	シュート長(m)	-0.0113	(-58467.840, 83797.730)
(1)道路縁.shp : オーバーシュート	終点側	シュート長(m)	+0.0020	(-57054.650, 79635.730) 建築物.shp
(2)道路縁.shp : オーバーシュート	始点側	シュート長(m)	+0.0013	(-59628.410, 80520.430) 建築物.shp
(3)道路縁.shp : オーバーシュート	終点側	シュート長(m)	+0.0005	(-57715.340, 80168.900) 建築物.shp

ガイド レポート チェックリスト1 チェックリスト2 確認リスト

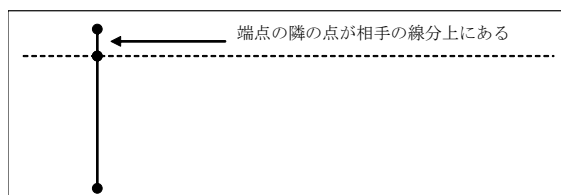
アンダーシュートの最大長、最小長はポリラインの端点から延長した線と相手の線分との交点まで距離で測ります。オーバーシュートははみ出した長さです。



最小長が 0 の場合、見かけ上ポリラインの端点がある他のポリライン・ポリゴン線分上にあっても、そのポリライン・ポリゴンの点と一致していない限りオーバーシュートあるいはアンダーシュートと判定します。



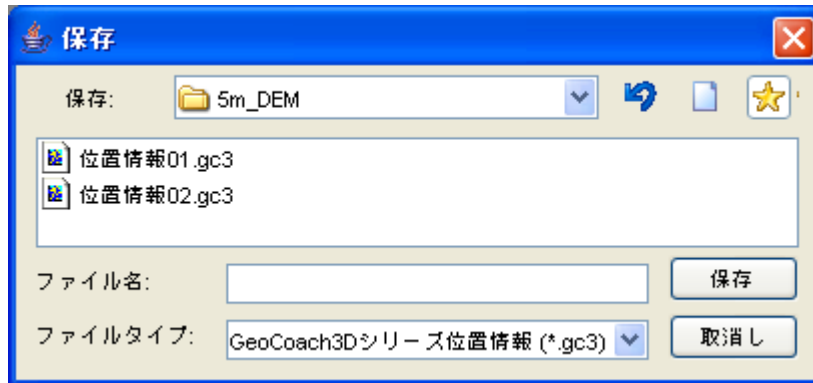
見かけ上、オーバーシュートに見えても、端点の隣の点が相手の上に乗っている場合はオーバーシュートとして検出されません。このようなケースは、「エラー! 参照元が見つかりません。エラー! 参照元が見つかりません。」の「短い区間」で検出できます。



3. 視線情報保存、視線情報開く

メニュー「表示」に新メニュー「視線情報保存」と「視線情報開く」を追加しました。

3D パネルで参照点とそれを見ている方向、ズームの値などをファイル.gc3 に記録します。gc3 はオリジナルフォーマットです。ひとつの視線の情報をひとつのファイルに保存します。



保存した gc3 ファイルを開いて、3D パネルで参照点とそれを見ていた方向、ズームの値などを再現します。